

スターリン主義打倒、反スタールクス主義止揚、革命的マルクスレーニン主義復権の旗を更に高く掲げ、国際非合法党を建設せよ!

赤報

1978年11月25日発行

共産主義者同盟 (RG)

第27号 200円 発行人 野村 忠

有事立法攻撃に反対し、国際非合法党建設の勝利を勝ちとるろう!

(一) はじめに

要綱発言をデコとして、政府は昨年八月以来開始していた有事立法攻撃を公然と本格的に推進して...

(二) 日本共産党宮本一派の批判

社会帝国主義者日本共産党宮本一派の有事立法反対の理由は例えば次のようなものである。

本輸出に基礎をおき、帝国主義の侵略・反革命の政治に基礎をおいた侵略・反革命戦争である。...

冬期一時金カンパの要請

政治警察の「〇・一三検査」の党建設は、集団的な事業で...

「資本論」の復権

(榎原 均著)

「ここにまとめられた著作は、革命的理論なくして革命的運動はありえない。...

定価 二八〇〇円

(三) 朝鮮民族の解放と労働者階級の経済的解放

ブルジョア階級の「有事」論議
「祖国擁護」の煽動、公認の野党
のそれへの屈辱の政治的意義は、
朝鮮プロレタリアート人民の血の
糾弾の前に明白となる。少し長い
が、以下の文章を引用しておく。
「われわれは日本を次のように
規定する。
一、日本は新植民地主義路線を
徹頭徹尾貫徹しながら、韓国に對
する経済的隷屬を全面的に進行さ
せている。国交正常化経済協力と
いう美名の下に六対一の貿易逆差
を強要しながら、自国の過剰商品
を韓国で処分しつつ、日本経済の
一方の要求のための資本と技術進
出を通じて、韓国の経済構造を自
国の再生産構造の一環として編成
させ、わが国、国民経済の自立化
を根本的に阻害しているものであ
り、日本消費経済と種族文化の補
中で溺れ死にさせるべく公々然ら
る植民地にしてあげている。

二、日本は新軍国主義機運を強
化し、経済的支配から政治的軍事
的支配にまで手をのばし、わが民
族の統一を阻害する勢力として登
場している。
対内的には、自衛隊の育成強化、
核整備体制への着手、経済軍事化、
軍国主義思想復活を機として、対
外的には、政治的・軍事的東アジ
ア支配のための太平洋新時代性、
アジア出兵可能性を政治外交上、
執拗に打ち出されてきて、最近に
は日本軍の具体的な出兵作戦に関
する論議のため、幕僚長をはじめ
とする自衛隊幹部たちを、台湾、
韓国等へ上陸させている実情であ
る。

われわれは、アジア人のための
アジア・アジアのための韓国を
願わない。われわれが願うことは、
ただ韓国人のための韓国のみであ
る。善隣という美名の下に、われ
われの自主独立を根本的に阻止し
ている新植民地主義、新軍国主義
の策動を、われわれは断乎として
反対するものである。(一九七一
年六月三〇日、民族守護宣言、ア
ンソ、七六年四月八日七頁)
日本帝国主義者は朝鮮民族の血
にまみれて肥え太り、彼等に武器
をむけ、抑圧している。朝鮮プロ

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

(四) 国際非合法法党建設について

ここで、我々はソ連社会帝国主
義、及び中国共産党の反ソ連一戦
線論に對する我々の態度を簡単に
述べておく。有事立法攻撃の中で
ブルジョア階級はソ連共産論、反
ソ連主義、反共主義を一方であ
り、また中国共産党の日米安保
も、自衛隊肯定論をあげつら
うことによつて、自分の侵略反
革命の強化を美化しているからで
ある。

ソ連社会帝国主義者は国際プロ
レタリアート人民の中に派遣され
た国際ブルジョア階級の分けん
隊としての役割を果たしている。
彼等は一方では米帝国主義をば
めとする帝国主義列強に屈服し、
ブルジョアの平和共存を口にしな
がら、国際プロレタリアート、被
抑圧民族の闘いの中に入りこみ、
その社会帝国主義としての政治に
よつて革命を中途で押しとどめ、
社会帝国主義の支配の下に革命を
さん奪することを目的として行動
している。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

(五) 革命的プロレタリアートの任務

ブルジョア階級が、有事立法攻
撃によつて、戒厳令を策動し、自衛
隊の治安出動体制を整備しようと
しているときに、(二)の間の大地震
の対立があり、他方、ソ連社会
帝国主義者は日米両帝国主義の朝
鮮侵略反革命を免罪して、対政權に
働きかけている。革命的プロレタ
リアートは日本帝国主義のソ連に
對する侵略反革命の政治に反対す
べきであり、日本帝国主義と取り
あれないことを認めないことによつ
て、偽善を行つてはならないのだ。
プロレタリアートは、日米両帝
国主義の侵略反革命、及びそれと
結合した朴カライ政権を打倒す
べき、朝鮮南部プロレタリアー
ト人民の民族解放民主主義革命を
支持し、その勝利を促進するため
に闘争しなくてはならない。朝鮮
民族の解放、朝鮮民族の自主的統
一の事業の当事者は、朝鮮南部
のブルジョア階級と朝鮮南部
のブルジョア階級と人民と朝鮮民
族の解放の事業を支持し、彼等の
日米両帝国主義に對する闘争は民
族解放のための正義の闘争である。
この闘争を支持し、在日朝鮮人連
動と固く連帯して闘うことによつ
てのみ、プロレタリアートは自分
のブルジョア階級からはっきり分
離することができ、プロレタリア
ートの政治権力の獲得、共産主義
の實現のために闘うことができる。

ブルジョア階級が、有事立法攻
撃によつて、戒厳令を策動し、自衛
隊の治安出動体制を整備しようと
しているときに、(二)の間の大地震
の対立があり、他方、ソ連社会
帝国主義者は日米両帝国主義の朝
鮮侵略反革命を免罪して、対政權に
働きかけている。革命的プロレタ
リアートは日本帝国主義のソ連に
對する侵略反革命の政治に反対す
べきであり、日本帝国主義と取り
あれないことを認めないことによつ
て、偽善を行つてはならないのだ。
プロレタリアートは、日米両帝
国主義の侵略反革命、及びそれと
結合した朴カライ政権を打倒す
べき、朝鮮南部プロレタリアー
ト人民の民族解放民主主義革命を
支持し、その勝利を促進するため
に闘争しなくてはならない。朝鮮
民族の解放、朝鮮民族の自主的統
一の事業の当事者は、朝鮮南部
のブルジョア階級と朝鮮南部
のブルジョア階級と人民と朝鮮民
族の解放の事業を支持し、彼等の
日米両帝国主義に對する闘争は民
族解放のための正義の闘争である。
この闘争を支持し、在日朝鮮人連
動と固く連帯して闘うことによつ
てのみ、プロレタリアートは自分
のブルジョア階級からはっきり分
離することができ、プロレタリア
ートの政治権力の獲得、共産主義
の實現のために闘うことができる。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

民事執行法を葬れ

ブルジョア階級が、有事立法攻
撃によつて、戒厳令を策動し、自衛
隊の治安出動体制を整備しようと
しているときに、(二)の間の大地震
の対立があり、他方、ソ連社会
帝国主義者は日米両帝国主義の朝
鮮侵略反革命を免罪して、対政權に
働きかけている。革命的プロレタ
リアートは日本帝国主義のソ連に
對する侵略反革命の政治に反対す
べきであり、日本帝国主義と取り
あれないことを認めないことによつ
て、偽善を行つてはならないのだ。
プロレタリアートは、日米両帝
国主義の侵略反革命、及びそれと
結合した朴カライ政権を打倒す
べき、朝鮮南部プロレタリアー
ト人民の民族解放民主主義革命を
支持し、その勝利を促進するため
に闘争しなくてはならない。朝鮮
民族の解放、朝鮮民族の自主的統
一の事業の当事者は、朝鮮南部
のブルジョア階級と朝鮮南部
のブルジョア階級と人民と朝鮮民
族の解放の事業を支持し、彼等の
日米両帝国主義に對する闘争は民
族解放のための正義の闘争である。
この闘争を支持し、在日朝鮮人連
動と固く連帯して闘うことによつ
てのみ、プロレタリアートは自分
のブルジョア階級からはっきり分
離することができ、プロレタリア
ートの政治権力の獲得、共産主義
の實現のために闘うことができる。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。

民事執行法を葬れ

ブルジョア階級が、有事立法攻
撃によつて、戒厳令を策動し、自衛
隊の治安出動体制を整備しようと
しているときに、(二)の間の大地震
の対立があり、他方、ソ連社会
帝国主義者は日米両帝国主義の朝
鮮侵略反革命を免罪して、対政權に
働きかけている。革命的プロレタ
リアートは日本帝国主義のソ連に
對する侵略反革命の政治に反対す
べきであり、日本帝国主義と取り
あれないことを認めないことによつ
て、偽善を行つてはならないのだ。
プロレタリアートは、日米両帝
国主義の侵略反革命、及びそれと
結合した朴カライ政権を打倒す
べき、朝鮮南部プロレタリアー
ト人民の民族解放民主主義革命を
支持し、その勝利を促進するため
に闘争しなくてはならない。朝鮮
民族の解放、朝鮮民族の自主的統
一の事業の当事者は、朝鮮南部
のブルジョア階級と朝鮮南部
のブルジョア階級と人民と朝鮮民
族の解放の事業を支持し、彼等の
日米両帝国主義に對する闘争は民
族解放のための正義の闘争である。
この闘争を支持し、在日朝鮮人連
動と固く連帯して闘うことによつ
てのみ、プロレタリアートは自分
のブルジョア階級からはっきり分
離することができ、プロレタリア
ートの政治権力の獲得、共産主義
の實現のために闘うことができる。

ブルジョア階級の日本帝国主義
に對する怒りと憎しみを心から支
持しないプロレタリアートは、社
会主義的プロレタリアートではな
く、ブルジョア階級の同盟者でし
かありえない。日本帝国主義ブル
ジョア階級が米帝国主義ブルジョ
ア階級とともに朝鮮南部人民を
経済的に支配し、搾取し、政治的
に抑圧し、更に有事立法研究によ
つて朝鮮南部の民族解放民主主
義革命を抑圧し、朝鮮民主主義人
民共和国に對抗する準備をすす
めているときに、ブルジョア階級の
「祖国擁護」の欺瞞に屈服し、そ
の侵略反革命を美化している公認
の野党が、ブルジョア階級と同盟
して朝鮮民族を抑圧していること
は明白であろう。



# 国際非合法党の任務について

## —党建設の新たな段階を切り拓くために—

### (A) 国際的党派闘争に関する原則的立場

#### (一) 党活動の転換についての提起

政治警察による一九七六年の二一三検査攻撃から二年が経過した。われわれは政治警察の攻撃に対して、全党の総力を上げて反撃し、この二年間、一〇・一三の教訓を学びつつ党建設の新たな段階を切り拓くべく闘ってきた。党建設の新たな段階を切り拓くわれわれの闘争の勝利は、一〇・一三以前のわれわれの「党建設の第二段階」の活動をもつて点検し、党活動の転換をなす必要があることよって果たされる。そのためにわれわれは「赤報」紙上で多くの提起を行ってきたが、こゝでまとめると以下の通りである。

第一に、党建設の第一、第二段階を通じてわれわれが堅持してきた政治局軍事委員会、RGII政治軍隊を組織的基礎とし、革命戦争に対して用意のある国際非合法党建設の路線を、党活動の基本的内容を全人民的政治的煽動におき、この二つの活動の中心として進めようとする。第二に、労働者階級の経済的解放のための闘争を指導するために、われわれはプロレタリアート・被抑圧大衆の政治的教育に、その政治的意識を醸成させることに積極的にかかわらなければならない。そのためには全人民的政治的煽動を組織することによって、政治的煽動を拡大しなければならないこと。

第三に、階級的意識、経済的闘争の外部から労働者にもたらすことができない以上、労働者に政治的知識をもちたすためには、われわれは住民のすべての階級のなかには、いつて宣伝・煽動を行わねばならず、理論家として、組織者として、そして、組織者として進めなければならないこと。第四に、非合法党にとっての全

#### (二) 政治局軍事委員会 RGII政治軍隊の継承

われわれは一九七一年に共産主義同盟(RG)を結成し、国際非合法党建設へと進み、第一インスター規約前文のマルクス主義の階級闘争に対する原則を復権し、中央集権主義の組織思想を組織建設に生かしてきたのであるが、このわれわれの歩みは、政治局軍事委員会、RGII政治軍隊という組織的基礎に継承されてきた。われわれは「赤報」紙上で、主にレーニンの組織計画の継承という観点から行われてきたわけであるが、政治局軍事委員会、RGII政治軍隊がなぜ国際非合法党の組織的基礎でなくてはならないのかという問題については、われわれは多くの点から明らかにすることのできる点がある。われわれは第二次プロレタリア大会以降のRGII建設と武装闘争の美談及びそれをめぐる分派闘争の経緯についてもまた「一八八」が扱った「スターリン主義打倒 反スターリン主義」のなかで、革命的マルクス・レーニン主義発展、国際非合法党建設の継承発展として、更に「一九七一年一・二一八」の分派闘争の経緯の総括として、一九七一年の共産主義同盟(RG)の党名改称の時点、政治局軍事委員会、RGII政治軍隊を中核とする国際非合法党建設の旗を掲げたのであった。われわれはこの路線を堅持し、更に発展させ、われわれが党建設の第一、第二段階で行ってきた非合法党の秘密活動の継承を、更に発展させ、党活動の転換を実現していかなく

#### (三) 国際的党派闘争に対する 諸党派の対応

第三インターのスターリン主義への変質は、ロシアプロレタリア権力を世界一のプロレタリア独裁権力として改組した世界革命戦争の機関として改組することを中心として、国際階級闘争の指導を維持し、第一インターの国際的党派闘争に勝利し、帝国主義の国際反革命軍事体系を粉砕してゆくことに失敗したところから生まれ、この立場は一九七一年四・二八三派集會を組織する過程で、「資本主義体制を基礎とした国際的党派闘争の内幕を提起することによって、この国際主義の政治目標を、世界一、世界赤軍の建設として具体化しなければならないのである」(「共産主義」一五号一八頁)とされ、そこではスターリン主義に対するより進んだ検討がなされた。この内容は共産主義者同盟(RG)結成以降発展させられた。われわれはこの問題を「遊撃戦の政治目標」として扱った。

「世界一」のプロレタリア独裁権力の樹立、及び国際非合法党建設について「赤報」一五号に引き続き「遊撃戦の政治目標」として扱った。この路線の下に第一次RG、第二次RGを建設してきたわれわれは、日党派との党内闘争をへて、二一八八を結成し、RGを党建設の中核にすえ、「二派止揚 八派解体」をめざしたが、その時点からわれわれは九回大会路線について次のように総括している。「九回大会過渡期世界論の最大欠陥は、コミンテルン六回大会以降の第三インターの総括を、レーニン主義の教条化による米帝への戦略の欠落として行なっている点であって、このような総括のなかからは、反ファシズム統一戦線から戦後ヤルタ体制に到るスターリン主義の帝国主義に対する屈辱を一方の基礎にして現代帝国主義の権力性格が形成されてくること、また世界一、世界赤軍世界革命戦争がどのような国際的党派闘争の地平において課題にならなければならないか、ならぬか、この路線の路線では、ソ連社会主義民主主義、帝国主義、帝国主義人民戦線路線を真に粉砕することはできないと考えているからである。世界一、プロレタリア独裁

#### (一) 日本共産党宮本一派

ベトナム革命以降の国際情勢は、過渡期階級闘争について、世界一、プロレタリアートの独裁を樹立するという見地から原則的な立場を打ち立て、世界一、世界赤軍の建設を、この方向を定めることが、プロレタリア国際主義を表現してゆく上で避けて通ることのできないものである。すでに見たとおりわれわれは九回大会以来世界一、世界赤軍、プロレタリアートの独裁をめぐる国際的党派闘争の重要性について明らかにし、政治局軍事委員会のRGI政治軍隊を国際非合法党の組織的基礎とするというところを、七一年のわれわれの結党の旗印として、党建設の第一、第二段階を通じて、国際非合法党建設の旗の下に闘ってきた。われわれが今日党活動の転換をおし進めようとする際に、これまでのわれわれの国際的党派闘争の経緯を継承し発展させてゆくことが必要である。このことの意味を明らかにするため、この国際的党派闘争の経緯を、日本共産党宮本一派及び反ソ連諸派の国際的党派闘争に対する態度について検討しておくことにしよう。

「世界情勢の評価には国際共産主義運動の内部でも、米ソ協調の最優先の立場や、あるいはソ連主義の立場からのアメリカ帝国主義美化論、さらには帝国主義勢力と反帝勢力の対立を忘れた三つの世界論など国際的党派闘争の方向を誤らせる各種の論拠が、お根づよくあるが、アメリカ帝国主義を先頭とする帝国主義と反動の陣営にたいして、三大革命勢力——社会主義、資本主義、民族解放運動、民族解放運動の正しい前進と連帯をはかるという、世界史にたまたまれた原則的見地を堅持することが重要である。」(「前衛」一四回大会特集三〇頁)

宮本一派はソ連派及び中国派に対して「国際的党派闘争の方向を誤らせる」として批判し、「三大革命勢力……の正しい前進と連帯をはかる」と述べ、その内容は「自主独立」という美名のもとにブルジョア的民族主義に迎合することに他ならない。宮本一派はこの具体的内容について述べている。

「自主独立の潮流が資本主義世界でも社会主義諸国の間でも大きく発展したことであり、ひきつづき一部の大国主義的平等はあるが全体として、各党の自主性を当然の原則とする国際連帯の新しい関係がつけられたことである。」(同書七二頁)

イタリア、スペイン、フランスの各国共産党がそれぞれのやり方でプロレタリアート独裁の綱領を放棄し、議会主義に純化した。ブルジョア民族主義に屈服してソ連共産党と対立した。今日の「国際共産主義運動」がソ連派と中国派、「自主独立」派に分化するに至ったこと、そしてこの「自主独立」派を強化することによって、ソ連派及び中国派の影響を断ち切ること、このことが宮本一派の「国際的党派闘争の方向」なのである。こゝで宮本一派は、一つの欺瞞を行っている。なぜなら彼等は、日本、イタリア、スペイン、フランス、イギリス共産党とベトナム労働党、朝鮮労働党、キ

ユーバ共産党等、後進諸国の党を「自独立派」に分類する。...

反スタ諸派

では反スタ諸派はどのように対応しているだろうか。...

トロツキーの理論

トロツキーはソ連を特権官僚の支配する階級国家と見て、...

黒田寛一の理論

黒田は「社会的総労働の比例的配分」という経済原則を社会主義的理論の基礎とする。...

中国共産党の理論

中国共産党はいわゆる反スタ派ではないが、中国共産党の連立国家独占資本主義論がブンド系諸派によって受け入れられている。...

四ノ連論に関する諸理論

われわれは党建設の第二段階においてマルクスの資本主義批判を、...

対馬忠行の理論

対馬は「価値法則の見解」に基づいて、価値法則の把握を、...





### (三) 集中化と専門化との関連について

われわれが手工業性を克服できないままに、この理論上の根拠を、専門化を実施するための前提である集中化を秘密の集中化と捉えていたこと、この誤り、専門化をRG内部で実施していなかったという第一段階の党活動の反映であった。

党組織と党活動を専門化するためには、その前提に党活動の集中化が必要である。何を集中するかという点に対して、われわれは秘密の機能だと考えていたのである。この秘密の機能を政治局軍事委員会に集中するというように考えていたのである。しかし、すでに「赤報」二六号四一五面から明らかになったように、秘密の機能は集中するということではなく、革命家の組織と労働者の組織との結合方法について規定したものであり、これは、組織活動の規模を上げるために専門化を実施することの前提条件としての集中化とは、相対的に独自の問題であった。

こうしたことはわれわれが革命戦争によって煽動を行うという考え方を、第二段階において根本的には克服してはなかったことと深く関わっているが、党活動の基本的内容を政治的煽動におくするならば、集中化しなければならないものは、全国的政治新聞の発行と連営の活動であり、党の全勢力をこの活動に集中することが問題なのである。こうした集中化がなされることによって、党活動の個々の機能に党組織を専門化させていくことができるのである。

### (四) 専門化されたグループの活動の経験

次に、われわれは第二段階における専門化されたグループの活動の問題点を点検することによって、われわれが今日専門化を実施し、ゆく上での教訓を明らかにしておく。

われわれの活動が手工業的であったといえ、われわれは第二段階において、活動を専門化させるための努力を行ってきた。われわれは、この「赤報」を全国的政治新聞として充実させるための調査及び情報収集活動を委任することができているのである。組織活動の上において、大衆の自然発生性や闘争性というものが、こうした集中化と専門化の関連について例示しておくことが必要である。たとえば、針を製造している中世の職人の労働と機械制大工業の労働者の労働を比較することによって、この関連は明らかとなる。針を製造するためには、中世の職人は一人一人がその製造に必要な全ての工程を行わなければならない。ところが機械制大工業の下では、労働者の労働は社会化され、結合されてくるので、全ての工程が一つに集中されている。そうした工程の集中化を前提にして、工程を分割して、労働者を個々の工程に専門化させることが可能になっていくのである。この例から分かるように、全国的政治新聞のための活動を集中化することによって、その全活動を特定の党員や機関にまかせようという考え方は、全党の活動を統合し、この活動全体を一つの共通の中央機関に反映させることが問題なのである。全国的政治新聞の組織に全勢力を集中することによって、われわれは党の共同の活動を集団的に作り上げることができ、党活動の個々の面に専門化された党員及び党組織が、自分の仕事を全党の事業の一部として、しっかりと自覚することができるのである。

### (五) 党組織を防衛するグループの活動の経験

党活動全体の手工業性は、党組織を防衛するためのグループを組織してゆく上でも多くの困難をもたらしている。ここでは党組織を政治警察の攻撃から防衛することを目的としたグループの活動について点検しておく。

党建設の第一段階においては、われわれは党の蜂起の実現をめざして武装闘争を闘っており、党組織を防衛する活動は、革命戦争を闘う軍の兵士として組織されていた。この時期には、革命戦争の利益が一切の活動を従属させていたのであった。第二段階に入ってから、RG政治軍隊が党活動の多くの機能を担わねばならなくなったとき、兵士として機能していた諸組織の活動の転換も同時に問われていたのであった。

これらの諸組織のうちには個別の運動の指導という活動を強化していったものもあり、党とグループとの間の関係を再検討することが必要となってきた。われわれはグループを、レーニンの経験に従って、運動全体に奉仕するグループと職業的運動に従事するグループとに区分し、二種類の活動を一つのグループが兼ねないようにした。

こうして、党組織を防衛するためのグループは、その活動を専門化するようになったのであるが、問

### (六) 文書の取り扱いと文書活動

以上で明らかにしてきた党活動の手工業性の問題、専門化されたグループの指導上の問題は、さらにはわれわれの党活動、秘密活動の点検することによって、今日の党活動にとって教訓となるべき事項を導き出すことができる。

第一の問題は秘密文書の取り扱いにかかわる事項である。われわれは、この取り扱いにおいて失敗をおかしており、その結果政治警察の捜査を拡大させたので、この点検は重要である。

まず、党内の文書作成について技術上の訓練が徹底していなかった。文書による党活動を提起する以上、文書は保管されねばならない。従って、文書は秘密保持の見地から等級別に分類されるべきであり、文書作成者は同一文書のなかに異なる等級に属する事項を記してはならないのである。

次に、文書報告を全国的政治新聞と結合させることができていないことが、第二段階の文書報告が、党外公開をめざして作成されておらず、内容上は党外公開にせよ、また秘密にする必要もない事項までが、秘密にしておかなくてはならぬ組織問題と必要のある党内の組織問題とからめて報告されていることにより、秘密文書として取り扱う必要が生じ、こうした秘密文書が膨大になっていったのであった。

こうしたことを防ぐためには、党活動の基本的内容を政治的煽動におき、ほとんどの文書報告が全国的政治新聞と結合したものと、提起される必要があるであった。

### (七) 紛争の定形化について

紛争はその性格からいって、紛争当事者の間で定形化され解決されるべき原則であり、上級はその定形化及び解決を与えるための場と条件を保障することが前提であり、その上で上級による紛争の審理と助言がなされる必要がある。第二段階では、上級が解決を与えるための場と条件を保障しないまま審理し、助言を与えていたのであった。そして主として機械的保持という見地から、異なる機関の文書の公開は原則としてなされていなかった。

この時期の文書は主として党内における紛争にかかわるものが多かったが、このような文書の取り扱いが必然的に、党内の紛争を個別機関とその上級という枠内で審議するというものになっていった。

われわれはRGを組織の中核としていたが故に、機関の構成メンバーの数は非常に少数であったこともあり、このような枠内での紛争

### (八) おわりに

以上で、われわれは党活動を転換させ、党建設の新たな段階を切り拓く開いてはならないと思われ、この組織活動上の諸問題について、一〇・二二検査攻撃の教訓として、第一、二検査攻撃の教訓と第一段階の活動の点検によって明らかになってきた。われわれは、自然発生的な大衆闘争の延長に革命を想定し、党を構成する人間の誰もかれも同じような雑然とした仕事をしているといった組織から、世界党建設と世界プロレ

### RG資料集の編集進む

われわれは、一九六九年以来RG建設によって、第二次ソ連の合法党、連合党から脱皮し、復讐し、革命戦争に用意のある国際非合法党を建設する党活動を、かそえ切れない機軸を明らかにしながら切りひらいてきた。

今日、われわれは党の綱領、戦術、組織を仕上げなければならない。国際共産主義運動と党の経験の独自の総括にもとづいてそれを仕上げなければならないと考えているが、政治軍隊としてのRGと党の実践そのものの発展をわれわれに与えるものである。二一・一八ソ連分派闘争に際して党の蜂起をかけた武装闘争・党内闘争・党派闘争を闘ったわれわれは、連合赤軍の敗北以降も非合法軍事組織を堅持し、清算派と闘い、RGの政治活動をたゆむことなく発展させてきたのである。

われわれは、レーニン主義を復権し、党活動の転換をなし、このことによって、政治局軍事委員会、RG政治軍隊を組織しながら、たゆむことなくボリスの基準とする国際非合法党建設の道を進む。

### 今日、われわれは

今日、われわれは、この国際非合法党建設の共同の事業に、かかるよう呼びかけるが、共産主義者同盟九回大会以来のRGの軌跡を明らかにするこの資料集は、事業にとって確固たる基盤の一つを示し、大きな意義をもつに違いない。

赤軍派が党に破壊して、非合法軍事組織の実践のまともな経験が非合法党建設の基盤の一つとして提起するものが、われわれは、連合赤軍の敗北以降も非合法軍事組織を堅持し、清算派と闘い、RGの政治活動をたゆむことなく発展させてきたのである。

「派」は、自らサークルの地位に転落したことの反映として「統一」の叫びをあげているが、われわれは、いつものことながら、たゆむことなくボリスの道を進む。

(以上)





# 工場新聞の組織と思想

## 〈掲載にあたって〉

工場新聞の問題についての読者の投稿を掲載する。執筆者の同志は、この論文の他にも、工場内暴露についての詳しい報告、また赤色労働組合主義に対する党派性、を貫徹しなければならぬというものが、はつきりしてきている。

ブルジョア打倒の打倒はサンデーリズムが想定するように、工場内権力の打倒からブルジョアの政治権力の打倒へと進むには進まない。われわれの目指す活動は、工場内権力を党の地方組織と結合し、プロレタリアートに全国的運動及び地方の運動に積極的に参加するよう呼びかけねばならないのである。工場新聞は経済的暴露だけでなく、このような行動を呼びかけるための政治的暴露のための手段とされねばならない。

以上に見れば立つことにより、非合法党の全国的政治運動と結合した工場内の党組織の一つの活動としての工場新聞の役割を明らかにし、工場内の党組織の種々な活動をどのようにしてあげてゆくのかがいかに重要である。ブルジョア打倒の打倒は、ブルジョアの労働運動の打倒と工場新聞の打倒はまた別の問題であり、また別の問題である。ブルジョア打倒の打倒は、ブルジョアの労働運動の打倒と工場新聞の打倒はまた別の問題である。ブルジョア打倒の打倒は、ブルジョアの労働運動の打倒と工場新聞の打倒はまた別の問題である。

## (一) はじめに

工場新聞について、それがどういかに役割をはたさなければならぬか、どのようにしてはたさなければならないか、という問題は、ブルジョアの労働運動に対する実践的な批判を遂行しようとするすべての労働運動活動家の重要な問題である。

定期的な発行を配布され定着している某工場新聞の発行が、この問題についてどう考えているかを、某工場新聞の内容から考えてみたい。この工場新聞はブルジョアの労働運動の既成の指導部の役割をはたさなければならぬ。ブルジョアの労働運動の既成の指導部の役割をはたさなければならぬ。ブルジョアの労働運動の既成の指導部の役割をはたさなければならぬ。

## (二) 工場内暴露

工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。

工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。工場新聞は労働者自身の意見、情報、情報を掲載しなければならぬ。

## (三) 正しい資本主義批判

労働者大衆のあいだでの暴露を手段とした煽動・宣伝の活動の成功に資本主義に対する批判や労働者階級に対する認識、賃金に対する見方などがいかに重要であるか、という問題が、

労働者大衆のあいだでの暴露を手段とした煽動・宣伝の活動の成功に資本主義に対する批判や労働者階級に対する認識、賃金に対する見方などがいかに重要であるか、という問題が、

## (四) ブルジョアの労働運動の打倒と工場新聞

今日の「ブルジョア」に対する断固とした反対派としての位置を明確にするものとして工場新聞を位置づける傾向に対しては、私の意見は若干異なる。

今日の「ブルジョア」に対する断固とした位置を明確にするものとして工場新聞を位置づける傾向に対しては、私の意見は若干異なる。

## (五) 「全国的政治新聞の計画」と工場新聞

工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。

工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。工場新聞は経済的暴露ばかりでなく政治的暴露も行わねばならぬ。

## 闘う労働者の新聞

『赤報』を定期購読しよう！  
一〇回分 二千元  
申し込みは「木せい社」へ